

国際資源調査等推進対策事業

平成 14 年度日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業

(抄録)

植村 康

目的

日本が国際機関の高度回遊性魚類の保存・管理に協力し、当該資源の安定的な利用のため、資源の科学的データを完備するための調査の一環で、独立行政法人水産総合研究センターが都道府県、大学、民間団体に委託した調査の一部の①漁獲関連データ集計・解析の青森県分を行ったものである。

方法

調査市場のマグロ類、サメ類（八戸のみ）の水揚げ伝票から調査項目を抽出して取りまとめた。

調査項目：漁獲月日、漁獲物規格、箱入れ尾数、漁獲物重量、漁獲物体長

調査市場：岩崎、深浦、三厩、大間、尻労、六ヶ所村海水、八戸漁連・八戸魚市場

調査時期：1 月から 6 月までのデータを 7 月に現地調査して、取りまとめ、日本 uns（データ取りまとめ機関）にデータを報告した。同様に 7 月から 12 月を 1 月に取りまとめ報告した。

結果

- ・ クロマグロは 7 市場で 10,126 尾の体重データを取りまとめた。水揚げの 100%を調査した。体長（尾叉長）は大間市場の体重 30 k g 以上個体の 703 尾を取りまとめた。魚市場別では岩崎：991 尾、深浦：2822 尾、三厩：907 尾、大間：2,212 尾、尻労：2,826 尾、六ヶ所村海水：263 尾、八戸：105 尾であった。
- ・ 7 市場のクロマグロは 213 トンで前年の 206 トンを上回った。大間が 16.2 トン、尻労が 21.6 トン増加し、三厩、深浦、岩崎、八戸は減少した。魚市場別では岩崎：6.6 トン、深浦：22.2 トン、三厩：20.0 トン、大間：129.3 トン、尻労：31.6 トン、六ヶ所村海水：2.6 トン、八戸：0.8 トンであった。
- ・ 体重別では、大間は体重 100 k g 以上個体の漁獲量が 80%を占めており、一本釣りで大型個体を漁獲している。三厩も 20 kg 以上が 69.4%と多いが、他は 20 kg 以下が大半である。
- ・ 漁期は、クロマグロは 6 月から 12 月、アブラツノザメは 10 月から翌年 6 月である。
- ・ 漁法は釣り、延縄、定置網であった。
- ・ マグロ類は他にマカジキ、メカジキ、キハダ、バショウカジキ、メバチが漁獲された。
- ・ アブラツノザメは 237.9 トンの水揚げがあった。伝票の箱入れ尾数から 117,439 尾の体重を推定した。これは水揚げ量の 70.5%にあたった。体重 1 ～3 k g 台が 95.6%であった。
- ・ サメ類は他に、ネズミザメ 5.2 トン、ホシザメ 4.5 トンが水揚げされた。

発表誌名：平成 14 年度日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業報告書

2003 年 3 月 独立行政法人 水産総合研究センター